



桜を見るならここ！超人気スポット
多々良沼公園の桜並木
【ソメイヨシノ】

多々良沼公園駐車場から浮島弁財天へと向かう散歩道は、桜一色に彩られます。見ごろは4月上旬。園内にはシダレザクラなども見事に咲き誇り、訪れる人たちの憩いの場となっています。邑楽町の人気スポットとして、毎年多くの人たちが訪れます。



春の代名詞といえば桜。桜の名所は春を待ちかねた人たちににぎわいます。卒業式、入学式の時期と重なるため桜は別れと出会いの象徴にもなっています。

昔から満開の桜は花盛り、散る桜を零れ桜、花びらが舞い散るさまは桜吹雪、水面に散った花びらが吹き寄せられて流れていくようすを花筏といわれています。水面に散った花びらが敷きつめられたようすを浮き橋に見立てて花の浮き橋と表現される場合もあります。

また、ひな祭りに食べられる桜もちを包む葉は、オオシマザクラの若い葉を塩漬けにしたものです。歌に詠まれたり、食材に利用されたりする桜は、今も昔も特別な存在です。「桜は散り際が潔い」といわれ、かつて軍国の花として賞賛され、戦場では、桜のように潔く死ぬことが美徳とされていました。

江戸時代の国学者、本居宣長は「敷島の大神心を人間は朝日に匂ふ山桜花」と、桜と大神魂を結びつけて歌を詠んでいます。太平洋戦争末期、一部の神風特別攻撃隊は、この本居宣長の詠んだ短歌から隊の名称がつけられ「敷島隊」や「山桜隊」などと呼ばれていました。

桜は軍国の象徴だった時代もあった一方で、今も日本人の心の花として愛され続け、その鮮やかな美しさは私たちを魅了し続けているのです。

悠久の時を刻み続ける神木
長柄神社のエドヒガン
【エドヒガン】

邑楽町で最も由緒がある長柄神社の歴史を物語るのが、エドヒガン。樹齢は約400年といわれ、町指定天然記念物になっています。毎年ほかの桜よりも早く、ソメイヨシノよりも色の濃い小さな花をたくさんつけます。見ごろは、3月下旬から4月上旬までです。



【エドヒガン】春の彼岸のころにはほかの桜に先駆けて開花します。江戸の名がついているのは、江戸で多く栽培されていたことによります。タチヒガン、アズマヒガン、ウバヒガンとも呼ばれ、日本で自生する桜のなかでは、もっとも長寿。

特集
S A K U R A
おうら桜通信

鮮烈な美しさで咲き誇る桜。
今も昔も日本人の心の花として、
愛され続けています。

写真は、永明寺のシダレザクラ



高島地区最大の桜スポット
松本公園の桜
【ソメイヨシノ】

高島地区の桜の人気スポットといえば松本公園。4月上旬には桜は満開をむかえ、訪れる人の心を和ませてくれます。



幻想的な桜にめぐり会える
大信寺のシダレザクラ
【シダレザクラ】

大信寺では、見事なシダレザクラが咲き誇ります。夜にはライトアップもされ、幻想的な桜を見ることができます。



↑見ごろは4月初めごろ

桜は、やはり春の代名詞と言っても過言ではありません。見上げれば一面の春を感じることができる花。別れの卒業、出会いの入学シーズンの象徴的な花なのです。「桜は散り際がきれい」とされ戦前は軍国主義の象徴にもなりました。

大多数の日本人が桜に関心を持つのは一年のうち1〜2週間。花が散ってしまった途端、あまり話題にのぼらなく

なります。ですが、桜はこれからは変わることがない、私たち日本人を魅了する花であり続けることでしょう。

今回の特集では、ほんの一部ですが邑楽町の桜の名所をご紹介します。紹介した以外にも桜が咲き誇る風景は数多くあります。あなた好みの桜の名所を、この町で見つけたいだければ幸いです。もうすぐ春になります。桜の花を見に行きませんか。



桜の花びらが降り積もる

松本古墳群のひとつに咲き誇る
八王子神社の桜
【ソメイヨシノ】



石打の人々に「八王子さま」と呼ばれ親しまれる八王子神社は、古墳の上にたっています。八人の王子の墓があったという言い伝えから、八王子神社と呼ばれるようになったという説もあります。古墳は6世紀後半ごろ（約1400年前）につくられたと考えられています。戦前、神社では縁日になると相撲大会も行われるほど活気がありました。4月上旬になると、見事な桜の花が咲き誇ります。



役場庁舎やシンボルタワー、町立図書館などと隣接するおうら中央公園。四季折々の風を感じられる自然豊かな憩いの場所です。自然の息吹を感じられる園内は、ウォーキングコースにも最適。毎年、春になると孫兵衛川沿いに見事な桜が咲き誇り、園内はひととき多くの人たちでにぎわっています。見ごろは、4月上旬ごろです。



春の風を感じられる場所
おうら中央公園の桜並木
【ソメイヨシノ・エドヒガン・シダレザクラ】



三春の滝桜 (みはるのたきざくら) 福島県三春町・シダレザクラ・推定樹齢1000年以上
日本三大桜 **山高神代桜** (やまたかじんだいざくら) 山梨県北杜市・エドヒガン・推定樹齢1800年以上
根尾谷淡墨桜 (ねおだにうすずみざくら) 岐阜県本巣市・エドヒガン・推定樹齢1500年以上

憩いの場としても親しまれる
里前公園の桜並木
【ソメイヨシノ】



鞍掛第三工業団地の東端にある里前公園。4月上旬、ソメイヨシノが咲き誇り、辺りを桜色に染め上げます。



【シダレザクラ】「糸桜」などとも呼ばれ、ハクシダレ、ウスベニシダレ、ベニシダレ、ヤエベニシダレなどに分類されます。福島県三春町にある「三春の滝桜」が有名です。

ソメイヨシノ
という桜

江戸時代の末期に、江戸染井村現在の東京都豊島区)の植木屋から桜の名所京都の吉野にちなんで「吉野桜」と名付けて売り出されました。

しかし、吉野の桜とは違うため、1900年に藤野奇命(ふじの・よりなが)の論文の中で、初めて「染井吉野」と名付けられました。

ソメイヨシノは、エドヒガンとオオシマザクラとの交配種です。成長が早く10年足らずで花をつける一方で、寿命は平均60〜70年といわれています。

昔は桜といえばヤマザクラを指しましたが、戦後の日本人はソメイヨシノをイメージするようになりました。

成長が早いため学校、公園、街路など、そのほとんどがソメイヨシノです。日本の桜の約八割は、ソメイヨシノといわれています。



【参考文献】『新日本の桜』大場秀章・川崎哲也・田中英明著(2007年)、『桜の雑学辞典』井筒清次著(2007年)、『桜の話題辞典』大貫茂(2010年)